

3 C 区市町村包括補助 令和 3 年度採択事業実施経過レポート

令和 6 年 4 月
東 京 都

はじめに

東京都は、「『未来の東京』戦略」（令和3年3月策定）においてその核に据えた**3つのC（Children(子供)、Chōju(長寿)、Community(居場所)）**を推進するため、区市町村による先駆的・分野横断的な事業に対して補助を実施しております。

本資料には、これまでに採択された事業の一部について、その実施状況や効果等を掲載しております。各区市町村におかれましても、**事業の検討・構築や本補助事業の活用**に、**ご活用いただけますと幸いです。**

子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

- ◆ 冒険遊び場における新たな子どもの仕事体験・居場所づくり推進事業
【国分寺市（R3年度新規採択）】…P4
- ◆ くにたち未来共創拠点矢川プラスを核とした幼児教育推進事業
【国立市（R3年度新規採択）】…P5

自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

- ◆ デジタルデバイド対策のミッシングリンク解消と
健康長寿の好循環を創出するための総合支援事業
【港区（R3年度新規採択）】…P6
- ◆ つながり創出による高齢者の健康増進事業
【調布市（R3年度新規採択）】…P7

「みんなの居場所」創出プロジェクト

- ◆ 玉川上水旧水路緑道の再整備による地域共創型の多様なコミュニティの醸成
【渋谷区（R3年度新規採択）】…P8
- ◆ 私にとっての居場所に出会える「totte」プロジェクト
【日野市（R3年度新規採択）】…P9

実施内容

補助の活用により、駄菓子屋やカフェを充実させ、仕事体験の
枠を超えた子供の社会参加の場として運営

① 野外遊び場に駄菓子屋を開設

- ・ 野外遊び場に駄菓子屋を開設し、4000人以上の子供が店員を体験
- ➡ 親子ひろばへの出張販売を通じて、乳幼児への読み聞かせ等の多世代交流が拡大
子供が店員とお客さんとして会話を楽しむようになり、駄菓子屋が子供の居場所に定着

② 親子がくつろげる「土日カフェ」の開設

- ・ 土日に乳幼児親子の休息と交流のためのカフェを開設し、コーヒーや焼き菓子を提供
- ➡ これまで来場が少なかった父親や高齢者の来場が増え、多世代交流・地域交流が進展

③ 中学生・高校生のための「夕暮れカフェ」の開設

- ・ 料理・楽器演奏などの体験活動やゲームなど、中高生が自由に過ごせるカフェを開設
- ➡ 不登校等の理由で孤立しがちな子供にスタッフが寄り添い、安心できる居場所に



仕事体験中の子供たち



子供たちが描いた壁画

3か年のスケジュール

令和3年度	令和4年度	令和5年度
施設整備, 子どもの意見収集	駄菓子屋の運営	
	夕暮れカフェ、土日カフェの運営	

子供の意見を反映した取組

子供の声

- ・ 子ども会議
「販売する駄菓子を選びたい」
「店の名前を自分たちで決めたい」
- ・ 子どもサポーター会議
「祭りをやりたい」
「店の壁に絵を描きたい」
- ・ 夕暮れサポーター会議
「Wi-Fiを整備してほしい」

取組内容

- ・ 子供たちの人気投票で、販売する駄菓子や店の名前を決定
- ・ 「だがプレまつり」を毎年開催
- ・ 駄菓子屋の壁面に子供たちが絵を描くイベントを開催
- ・ Wi-Fiを整備

実施の効果

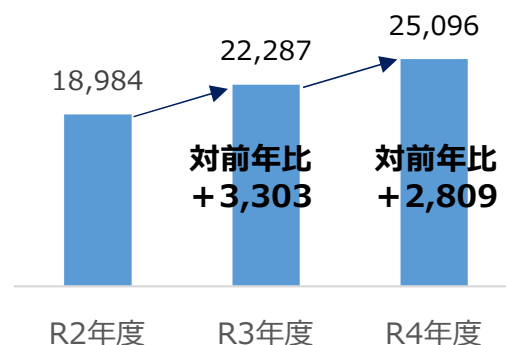
【施設利用者数】

・ 駄菓子屋やカフェを開設したことで、冒険遊び場の利用者数が2年連続で大きく増加した。

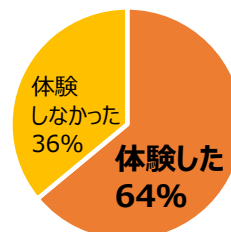
【満足度】

・ 冒険遊び場の利用者の多くが仕事体験に参加しており、そのほとんどが楽しみなが活動できている。

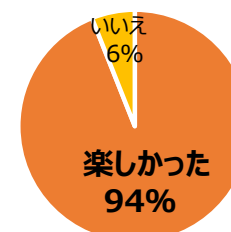
冒険遊び場利用者数の推移（人）



冒険遊び場利用者アンケート「仕事体験はしましたか？」



仕事体験利用者アンケート「楽しかったですか？」



令和5年11月21日～12月10日実施
回答数101名（小学生～高校生）

実施区市町村の声

3 C補助を活用して駄菓子屋や夕暮れカフェ等を開設したところ、子供の社会参加や多世代交流・地域交流促進の契機となった。孤立しがちな子供たちが素の自分でありながら、他の支援機関とも連携していきたい。

実施内容

子供の声を取り入れ、多世代が集う地域の賑わい拠点を創出

①複合公共施設「くにたち未来共創拠点矢川プラス」開設

- ・ 幼児教育センター、子育てひろば、児童館、多目的ルーム（貸室）、スタジオなどで構成される複合施設を令和5年4月に開設
- ➡ 共用部を広くした設計により、幅広い世代が集う居場所に

②幼児教育の推進

- ・ 幼児期の子どもとの関わり方を親子で学ぶ通所事業「ここすき！」を実施
- ・ 幼保小連携推進事業等、市内保育施設等の連携を深める取組を展開

③地域との連携・多世代交流イベントによる賑わい創出

- ・ 多世代の地域住民ボランティアによるおもちゃの製作活動の推進
- ・ 地元商店会と協力したお祭り「サマーデイズナイト」の開催（9/2）
- ・ 大学生による子ども向け科学実験イベントや工作教室の実施
- ・ 幅広い年代を対象にした「音楽の日」イベントの実施

3か年のスケジュール

令和3年度	令和4年度	令和5年度
6月～7月設計 7月～着工 近隣住民や子どもたちの意見収集	10月施設完成 11月指定管理開始	4月施設オープン 幼児教育の推進・各種イベントの実施



矢川プラス外観



意欲的に活動する乳幼児

子どもの意見を反映した取組

子どもの声

- ・ 高校3年生
「放課後に静かに自習できる場所が欲しい」
- ・ 高校3年生
「矢川プラスで学生主体のお祭をやりたい」
- ・ 中学3年生
「バンド活動で生まれる交流もあるので、スタジオを作って欲しい」

取組内容

- ・ 午後10時まで自習ができる「スタディコーナー」を開設
- ・ 学生主体のお祭イベント
「やってみやがわ！」の開催(8/24)
- ・ バンド活動に必要な楽器等の設備を備えた音楽スタジオを設置

実施の効果

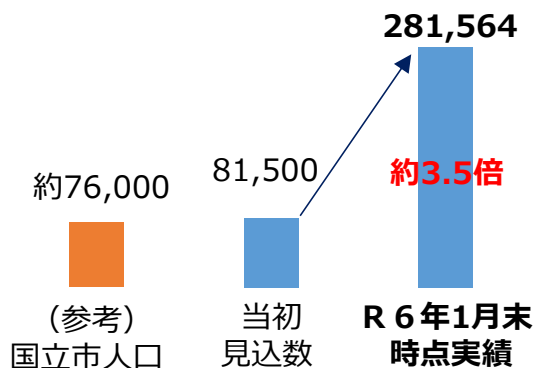
【施設利用者数】

3 C補助を活用して多世代が集える環境を整えたことにより、矢川プラス来館数は当初見込の約3.5倍、子育てひろば来場数は旧子育てひろばの約10倍となった（令和6年1月末時点）。

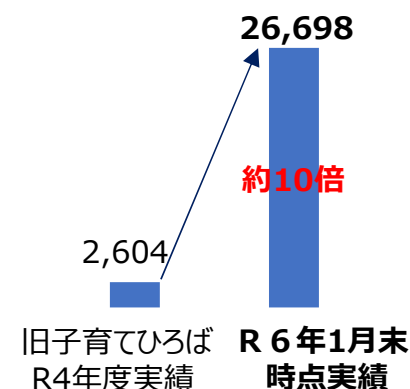
【満足度】

通所事業「ここすき！」の利用者アンケートでは、全員が事業内容に満足し、子供に良い変化があったと回答。

矢川プラス来館数(延べ人数)



子育てひろば来場数(延べ組数)



実施区市町村の声

3 C補助の利用により、設計段階から竣工後まで子供目線を大切に、子供の声の実現に注力したことで、子供の利用者数が大きく増加した。まちぐるみで子どもを育て、多世代が集う拠点となり、地域の賑わい創出等、多分野へ波及効果の高い事業となった。

実施内容

◆スマートフォン普及体験事業

- ・端末貸出数 R4：327人、R5：134人 計461人
- ・操作方法の講習会（全5回）を開催、コールセンターや相談窓口など支援体制を提供
- ・端末を最大6カ月間無料で貸出し、実生活での利用を通じて利便性を実感

◆デジタル活用支援員相談窓口の設置

- ・スマホ等の端末操作方法やスマホ購入に関する助言・相談を受付
- ・区内6か所に相談窓口を設置（相談延べ件数 R3～5(R6.2.29現在):10,769件）

◆オンラインを活用した介護予防事業

- ・自宅のできる双方向のオンライン健康トレーニングプログラム（参加延べ人数674人）
- ・YouTubeを使用し、理学療法士等が運動指導動画等を配信
- ・参加者等に、WEBツール使い方等のデジタル講習会を実施（参加延べ人数716人）

◆健康長寿アプリの開発及び導入

- ・区民モニターを活用し、令和6年4月の本格稼働に向けて事業をブラッシュアップ
- ・アプリは気軽に楽しみながら介護予防が実施可能
- ・チームで歩数目標を立てる事で継続性を向上（1日1回写真を投稿すると歩数が反映される仕組みを導入）
- ・寄付等と交換可能なポイント機能を付与・プッシュ通知でその他介護予防事業を紹介

【デジタル活用支援員相談窓口】



【スマホ講習会】



【三日坊主防止アプリ みんチャレ】

3か年の
スケジュール

令和3年度	令和4年度	令和5年度
・ICT意識調査	・高齢者スマートフォン普及体験事業	
・デジタル活用支援員の配置		
・オンラインを活用した介護予防事業		
		・健康長寿アプリの開発及び導入

実施の効果

◆スマートフォン普及体験事業

スマホを所有したくなったと参加者の7割以上が回答

◆相談窓口の設置

利用者の約75%が継続相談しており、デジタルデバйд解消に寄与
⇒普及体験事業及び相談窓口利用者のアンケートから、多くの高齢者が対面での継続的なサポートを希望していることが把握できた
⇒令和6年度は相談窓口の開設場所を11箇所拡大し、デジタルデバйд対策を更に充実させていく予定

◆オンラインを活用した介護予防事業

利用者から天候に関わりなく（特に熱中症）介護予防事業に参加できてよかったとの声や内容によってオンライン参加が選べることでプライバシーが守られる事が嬉しかったなどの声があることから、今後も継続して事業を実施していく予定

実施区市町村の声

- ・普及体験事業のアンケートからスマホの無料貸出がきっかけになって、自身のスマホを購入するに至ったとの回答が多数みられた。
- ・介護予防事業について、ハイブリッド型のイベントも実施し、参加者に好評だった。今後も様々なオンラインを活用した事業を実施していきたい。

実施内容

事業モデルの実施体制の構築

- ・産学官連携体制の構築：調布市×アフラック×電気通信大学の3者協定を締結。定例会議で協議のうえ事業実施
- ・モデル地域の設定：高齢化率の高い2つの地域（深大寺・染地）を高齢者フレイル予防の実証実験の場と設定
モデル地区の高齢者を対象にアンケート調査を実施。健康増進プログラムを展開

健康増進プログラム

- ・プロのインストラクターによる体操教室をオンライン（Zoom）で実施。併せて、食事に関する座学講座や簡単なゲームを実施し、参加者間のオンラインでの交流を促進（6回1セットの講座7セット×2地域 計147名参加）
- ・事前/事後測定会により、活動量や脳の健康度等のデータを収集するとともに、対面での交流機会を創出

居場所（デジタルリビングラボ）の運営とデジタルデバイド対策

- ・地域の空き家・空き店舗を活用し、活動・交流拠点となる「デジタルリビングラボ」を深大寺及び染地に整備
- ・デジタル健康測定機器を常設し、健康への関心醸成を図るとともに、イベントによる対面での多様な交流機会を提供
- ・スマホ教室（イベント）のほか、ラボ内でも日常的にスマホの使い方相談を受け付け、地域のデジタルデバイド解消を図る



Zoomを活用したオンライン体操教室
※インストラクター（中央）の指導を受けながら、
参加者（左）が体操している



深大寺デジタルリビングラボ

深大寺デジタルリビングラボ
運営の地域移行（NPO法人）

3か年のスケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
協定締結・モデル地区選定	→		
ベースライン調査（現状調査アンケート）	→		
健康増進プログラム			→
デジタルリビングラボ（深大寺R4.7～/染地R4.10～）			→

実施の効果

①高齢者のつながり創出

- ・地域住民に、「居場所」の重要性を感じてもらうことができた
- ・ラボの継続を希望する声もあり、令和6年度からはNPO法人による運営に移行する

●健康増進プログラムの実施結果

- ・オンライン体操教室の参加者 147人
- ・その他関連イベントの参加者 183人

●デジタルリビングラボ運営結果

- ・利用者数
深大寺 2105人（9.4人/日）
染地 1018人（5.6人/日）
- ・イベント数/参加人数計
深大寺 91イベント/ 457人
染地 62イベント/ 199人

参加者の声

- ・Zoomをやったことで自信がついた。今後は友達から誘われたときにはやってみようと思う。
- ・（体操の）翌日歩くのが楽になり感動した。
- ・家では家族とあまり会話がなかったので、気軽に話せる場所があるのが嬉しい。
- ・健康状態がチェックできて安心する。
- ・初めて行ったきっかけは、スマホの使い方を教えてもらいたかったから、使い方を教えてくれるのは嬉しい。

②施策効果の検証

両調査に回答し、かつ本事業への参加実態について回答した計1,585名を調査対象とした（有効追跡率42.4%）
うち、事業参加者209名、非参加者1,376名

●主観的幸福度の向上

事業実施前後を比較すると、非参加者は変化がなかったが、
参加者の主観的幸福度がやや向上した

●健康増進

・緑黄色野菜の摂取状況、自律神経の状態、ヘモグロビン推定値について、**オンライン健康教室参加後に有意な改善が認められた**

実施区市町村の声

- ・高齢者の健康増進・フレイル予防には、運動、食事改善、認知症対策などの身体面の健康増進の取組はもとより、人との交流による精神面の健康増進の取組が重要と考えています。
- ・補助金を活用することで、市単独の財源では実現できない実証的な取組を実施でき、対面・オンライン両面での交流機会創出や、居場所運営に関する知見を得ることができました。

実施内容

緑道再整備事業（実施設計、ワークショップ等の実施）

- 緑豊かな都市景観の形成、地域の賑わいの創出などを図り、ササハタハツ（笹塚・幡ヶ谷・初台駅周辺）エリアの新たなまちづくりを牽引する空間として再整備を行う。
- 新しい緑道のあり方を区民と共に考えていく地域共創型の緑道としての整備を目指し、「ササハタハツ会議」や「出張座談会」などのワークショップ等を活用し、地域住民との対話を実施。区HPや現地看板及びPR動画等で、緑道再整備事業に係る情報発信を実施。



初台緑道 イメージ

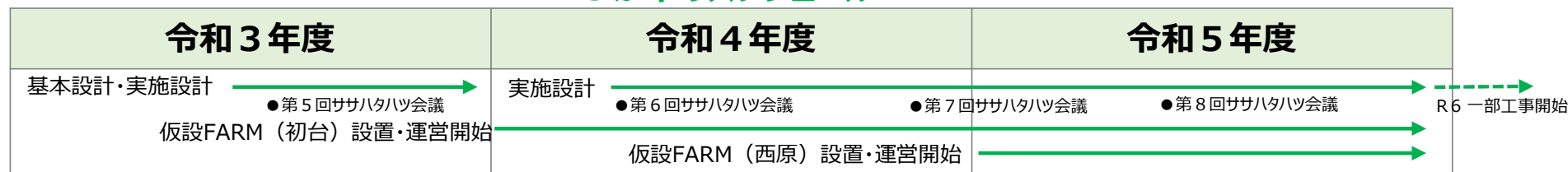
仮設FARMの実施

- 地域共創型の緑道整備に向けた住民参画の機運の醸成及び緑道の維持管理ルールなどの検証のために、実証実験として初台緑道と西原緑道に仮設FARMを設置。
- 現在、公募で選定した各30名（計60名）の利用者と、水やり等の日常管理や運営を実施。利用者だけではなく広く地域住民の意見を聞き、緑道再整備に向けた農園運営方法の検討などを進めていく。



仮設FARM（初台）

3か年のスケジュール



実施の効果

ワークショップ等の実施（R3年度以降）

- 第5回ササハタハツ会議 参加者：43名
- 第6回ササハタハツ会議 参加者：43名
- 第7回ササハタハツ会議 参加者：27名
- 第8回ササハタハツ会議 参加者：146名
- 出張座談会（R3年度以降） 参加者：延べ239名
- 緑道アンケート（R3年度実施） 回答者：303名（延べ2360件）

仮設FARMの実施

利用者募集

- 初台利用者募集【R4.1】 応募者：310名
- 初台・西原利用者募集【R4.8】 応募者：130名
- 追加募集【R5.8】 応募者：62名

緑道上での活動回数

- R4年度：30回程度（農のお手入れに関する利用者の活動）
- R5年度：15回程度（農のお手入れに関する利用者の活動、地域に開いた活動）

・地元住民、町会、エリアに関心のある方など多様な人々の参画を促し、集まった多くの意見を整備に反映することができた。（お花見スペースや子供や親世代が集う憩いの場など、地域のご意見を踏まえて設計内容に反映）

・利用者からは、「活動を通じて地域での孤独感がなくなった」等の声をいただいております。住民主体の催しや行事も活発に行われるなど、交流が生まれる基盤として機能しています。ここで形成された人の輪を継続的に発展させつつ、FARM運営の自走化を図るなど、都市型農園の良い先行事例となるよう取り組んでいく。

実施区市町村の声

補助の活用により、事業の更なる充実強化（実証実験の実施等）を行うことができた。

それにより、緑道再整備に向けた住民参画の気運の醸成や、緑道を活用したコミュニティの形成や都市型農園の管理運営の知見を得ることが出来た。

実施内容

※「私にとっての居場所に出会える「totte」プロジェクト」として以下 4 事業を実施

①誰でも気軽に利用できる居場所づくり（ほっとプレイスうちたす）

- ・令和5年4月1日に正式OPEN 気軽に誰でも利用できる居場所として運営を開始（利用者数11,624名 イベント10回(4月～11月)）
- ・地域に認知するためのイベントを開催、またSNSで情報発信を展開（公式LINE毎月配信）

②未利用地を活用したアウトドアイベント

- ・民間企業等主体で、多摩平地区・高幡台地区の未利用地を活用した実証活動
→計11回のまちづくり講座を実施し、延べ340人が参加

③環境・地域コミュニティ施設を活用

- ・オクトーバーフェストで日野産材を用いたスウェーデンーチイベントを実施（109名）
- ・ゲームツール等の充実により、地域の大人と子供達との新たな交流の場を創出

④生涯学習ポータルサイトの充実・更新

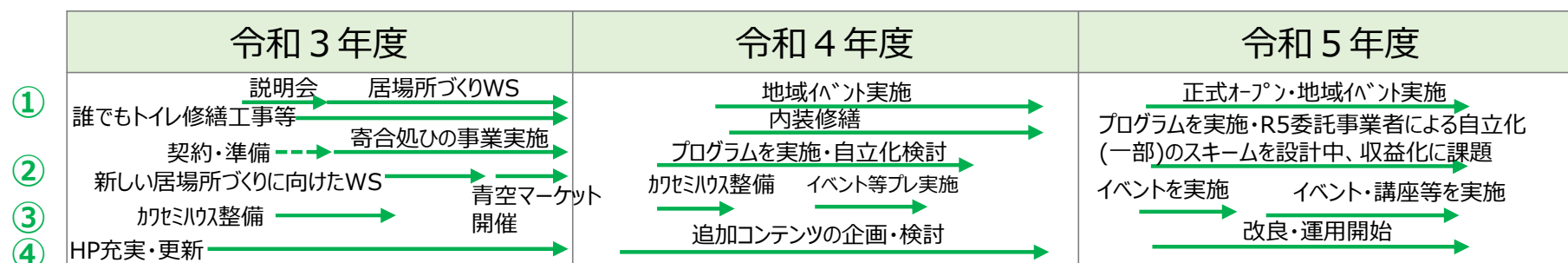
- ・生涯学習ポータルサイト「Hi Know」の操作性やアクセスビリティの向上、新機能の増設



【多摩平地区】寄合処ひの焚火を囲んだミーティングスペースの設置等を3日間開催し、延べ92名が利用



【高幡台地区】青空アートマーケット 市民参加型の展示やイベントを開催し、約450名が参加



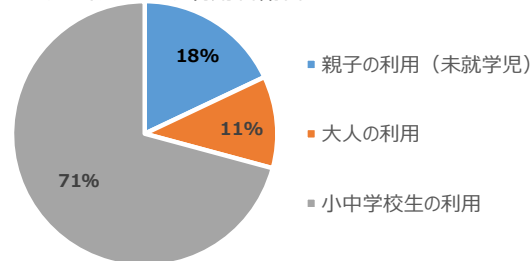
実施の効果

地区センター改修前
利用者数700人／年程度

改修・ほっとプレイスうちたすOPEN
1万人以上利用する地域の居場所に

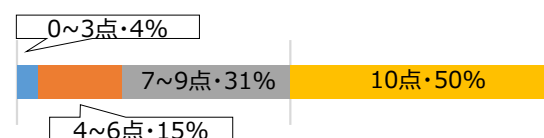
- 利用者アンケートの主な意見 ---
- ・どの年代も自由に過ごせる
 - ・入りやすい雰囲気
 - ・綺麗になって使いやすい
 - ・案内係がいて安心して利用できる
 - ・このような居場所が増えてほしい

ほっとプレイスうちたす利用者割合



コンセプト創りから地域住民が参画したことで
地域の方が利用しやすい居場所に定着した。
今後も地域主体の運営で実施する

寄合処ひへの高評価（0～10点）



生涯学習ポータルサイト「Hi Know」団体登録数の増加

元年度	2年度	3年度	4年度
232	236	244	275

* サイト更新後、令和5年2月に「みんなで作ろう！HiKnow！読者アンケート」を実施したところ、「格段に見やすくなった」「情報が充実したサイト」「どんどん進化に期待」という声が寄せられた。

実施区市町村の声

- ・今後は更なる利用者向上のために新規のソフト事業を展開していく（地域協働課）
- ・複数の分野で居場所という共通のテーマを基に事業展開をすることができた。また、居場所づくりや市民参加型イベントを行う中で現役世代やプレシニア層など多様な市民が参加し、コミュニティにおける新たな担い手を発掘することができた。（企画経営課）